

東京農業大学稲花小学校

学校だより【12月23日】第35号



南極地域探検隊員が小学校を訪問

第61次南極地域観測隊の隊員71名の一人として選ばれた東京農業大学卒業生の田留健介氏が、12月16日(月)、東京農業大学高野学長を表敬訪問し、その後、農大稲花小学校も訪問されました。

夏隊で研究観測を任務とする田留氏は、日ごろから研究している地衣類を中心に観測を進めるそうです。南極大陸では想像を絶するような超低温や強い紫外線の中での任務となり、加えてクレバス(氷の深い裂け目)などの危険もたくさんあるとのこと。そのため、現在、雪山などでの厳しい訓練を繰り返しているというお話も伺うことができました。



無事に任務を果たされることを祈念するとともに、帰国後には本校の子どもたちに、南極での経験をお話していただけたら…と期待しています。

谷川賢作先生をお招きして

2018年12月22日(土)の「東京農業大学稲花小学校 開校式」、そして、本年4月6日(土)の「第一回東京農業大学稲花小学校入学式」でも披露され、感動を呼んだ校歌「東京農業大学稲花小学校の歌」。この校歌は、作詞を谷川俊太郎氏、作曲を谷川賢作氏にお願いしたもので、その歌詞は、本校の教育が目指すところを余すところなく表現しています。

12月17日(火)に、谷川賢作氏にご来校いただけることになり、子どもたちによる歌のご披露、そして、谷川氏によるミニコンサートが実現しました。 t



当日は、1年生全員が体育館のステージに集合。まず、子どもたちの代表一名が、校歌が大好きな子どもたちから谷川俊太郎氏・谷川賢作氏へのメッセージを堂々と発表。続いて「東京農業大学稲花小学校の歌」の二部合唱となりました。次に、同じく子どもたちの代表一名が、谷川賢作氏作曲のたくさんの歌の中からみんなで相談して選んだ歌について、思いのこもったメッセージを発表。谷川氏作曲による「みぎのてのひら」を合唱しました。その後、谷川氏の歌、ピアノ演奏、そしてトークによる素敵なミニコンサートを行っていただきました。ステージ下の椅子に座って拝聴する予定だった子どもたちは、ステージに上がるようお声がけいただき、グランドピアノを囲んでの楽しいミニコンサートとなりました。



当日は、保護者の皆さまのご参加があり、法人からは大澤貫寿理事長も来校されました。1年生の子どもたちのしっかりした態度や、可愛い歌声に感動していただけたのではないのでしょうか。また、谷川氏のミニコンサートにも、大いに楽しんでいただけたものと思います。谷川氏には心から御礼申し上げるとともに、このような機会をまたいただけますことを願っています。

■ 東京農業大学稲花小学校の歌

作詞：谷川俊太郎

作曲：谷川賢作

わたしたちは いきている
このほしの だいちのうえに
たいようと みずにめぐまれ
はるなつあきふゆ
めぐるいのち はなさくいのち

しらないことを まなぶひび
すこやかに こころとからだ
ともだちと わらってないて
はるなつあきふゆ
みのるいのち はぐくむいのち

きょうからあすへ
とうかしょうがっこう

間もなく終業式

12月25日(水)には終業式を迎え、2学期が終了します。農大稲花小学校の教員は、成績表「みのり」への記入や点検をいたしました。

本校では「3つの心と2つの力」を育成するため、「10の能力」を教育指標として設定し、教育方針を実現するカリキュラムを作成しています。そのため、「みのり」も、この「10の能力」がどのように身についているかを反映しています。何かが「できたか、できなかったか」だけに注目するのはなく、子どもたちの「取り組みの姿勢とその成果」に注目した評価を行います。例えば、10の能力の一つである「興味・関心～未知なるものへの興味・関心」では、好きなことだけに興味・関心を示すのではなく、あまり好きでないこと、苦手なことでも興味・関心を持ち、友だちとそれを共有し、積極的に取り組もうとする姿勢を評価しています。

終業式で持ち帰る作品や「みのり」をご覧ください、子どもたちが意欲を持って3学期を楽しみに迎えられるよう、保護者の皆さまのご指導をお願いいたします。

時にはぶつかることもあります

12月も半ばを過ぎ、インフルエンザや水ぼうそうなどに罹る子どもたちも出始めました。一方、寒くても休み時間になると、元気にグラウンドに駆け出していく子どもたちがたくさんいます。中には半そでの子もいます。当然ながら校内は走らないことになっていますが、元気余っての小さな衝突事故が起きたこともありました。

小さい言い争いや喧嘩も、もちろん見られます。入学当時は自分一人の世界にいた子どもたちが、友だちとの関係の中で成長を始めた徴ともいえます。悪口を言いたくなる気持ち、悪口を言われて嫌な気持ち、もしこれを知らないで大きくなったとしたら、子どもの人生にとっては危険なことです。友だちをたたいてしまった後の嫌な気持ち、あるいは友だちにたたかれて痛かったこと、友だちの喧嘩を見て悲しかったこと……、これを経験せずに大きくなったとしたら、これも怖いことです。一方、良くないことをしてしまったときには、それに気づき、必要なら家族や教員に伝え相談できる子ども、そして何より、反省し、きちんと謝れる子どもを育てることは、子どもたちの将来のために大切です。

友だちとの関係を築きながら成長していく子どもたちです。本校では、安全を第一としながら、一人一人の子どもたちの心の成長を注意深く見守っていきます。それぞれの家庭が子どもの心のよりどころでありますよう、保護者の皆さまの温かい見守りもお願いいたします。

校長 夏秋 啓子